

「ア、大將ですか」

「コレ大將ですかやないで、今も見て居ると、ついぞ見馴ぬものを、二疋も寄つて、可哀想な事をして遣るナ、何うしたんや」

「ヘエ、場末の奴が挨拶も無しに此町内を通らうとしますので、三丁目と言ひ合して、ウタハシテやらうと思ひましたんや」

「なに、ウタハス、其様な無茶をするな、可哀想に、ヨオ聽けよ、處で吠かぬ犬は無いと云ふ事が有るぢやろう、お前等でも此町内に居るよつてに威張つて居られるが、他の町内へ行けば同じ事ぢや、そんな弱い者虐待をして遣るな、平常から云ふて聽かしてあるぢやないか」

「何うも、相濟ぬ事で」

「以後は氣をつけよ、お前は一體何處の者ぢや」

「ヘイ、私は今宮だす」

「今宮から此町内へ來たら何故挨拶をして通らんのだや、それぢやから喧嘩を吹掛けられるのだや、併し生れは今宮か」

「え、生れは船場だす」

「船場は、何處や」

「ヘエ、南本町堺筋を東エ這入りました南側だす」

「南本町堺筋を東へ這入つた處に、竹内さんと云ふ内が有るぢやろう」

「ヘエ、其の竹内さんで生れました」

「竹内さんと聞くと耳寄な話ぢやが、其家に三疋兄弟が有つたぢやろう」

「ヘエ、皆私の兄さんだす」

「何、兄貴か、其兄は何うした」

「ヘエ、上の兄さんは幸福な方で、鴻池さんへ貰はれてでした」

「フム、其次の兄は何うした」

「ヘエ、表へ遊びに出るなり、車に引かれて、クワンと云ふたが、此の世の別れ、其場で死んで仕舞ました」

「フムそうか、そしてお前は」

「ヘエ、私は心得違ひを致しまして、彼方の物を盗食ひし、此方の物を取つて食ひ致しました處から悪い病氣を承け、毛が脱けて、此有様になりましたので、家を放り出されて今宮の場末へ落ちました」

「ナニ、物を盗つた、物を盗ると云ふ様な悪い了見を出すなよ、其様な根性では一生出世が出来ん、